

富士ヒノキ利用促進に向け策定するロードマップと 富士駅北口公益施設での富士市産木材の活用は 真政会

議員 富士ヒノキや製品ブランド「FUJI HINOKI MADE」の利用促進・販路開拓を図るために策定するロードマップの構想と、富士駅北口再整備の公益施設での富士市産木材の活用に向けた検討内容を伺う。

市長 本市は、総面積の約半分が森林だが、国産材の需要低迷や担い手不足など、様々な要因により、森林のおよそ9割が本格的な伐採期を迎え、更新が進んでいない。

そこで、今後の事業展開を示すロードマップを作成し、森林の更新を推し進めるためのステップ

を体系的に見える化し、取組の加速化を図っていく。植える、育てる、伐る、使うといった森の循環サイクルのうち、本市では、特に「使う」にスポットを当て、ハウスメーカーなどの民間企業へのアプローチを行うなど、利用促進・販路開拓を図るための戦略的な取組を重点的に展開していく。

また、富士駅北口再整備の公益施設建設における富士市産木材の活用に向けては、現在、受注業者や製材業者などと、内装木質化に利用する木材の品質や必要量などを検討している。

富士駅北口からは、霊峰富士を望める絶好のロケーションが広がり、全国に向けて本市の魅力を発信できることから、富士市産木材を積極的に利用していく。



子宮頸がんワクチンのキャッチアップ接種の 現状と今後の進め方は 凜の会・公明党

議員 子宮頸がんのさらなる予防を目指し、引き続きワクチンのキャッチアップ接種を実施するなど、接種勧奨を行っていくとのことだが、現状はどうか。また、今後どのように進めるのか伺う。

市長 国は、令和3年11月に、子宮頸がんワクチンの積極的勧奨の差し控え勧告を廃止し、昨年度には、積極的勧奨の差し控えの期間に接種機会を逃した方に対して、公平な接種機会を確保する観点から、救済措置であるキャッチアップ接種を開始し、さらに本年度からは、9価ワクチンが定期接種に用いられるようになった。

本市では、昨年度末時点で、キャッチアップ接種

対象者では約4割の女性が、また、定期接種の対象者では約1割の女性がそれぞれ3回接種を完了している状況である。

新年度は、キャッチアップ接種の最終年度となるが、キャッチアップ接種対象者と、定期接種の期限を迎える高校1年生相当の年齢の女性に向けて、接種勧奨はがきの個別発送や、広報ふじなどへの啓発記事の掲載、さらに、SNSによる情報提供を積極的に行う予定である。

また、富士市医師会と連携し、接種対象者本人や保護者の世代に向けて、ワクチンの接種勧奨を行うとともに、子宮頸がんの予防や早期発見には、定期的ながん検診を受診することも大切であることから、併せて市民に周知していく。

新たな産業用地の確保に向けた土地利用転換の 具体的な検討内容は 心政富士

議員 新たな産業用地を確保するため、土地利用転換の実現性について検討するとのことだが、場所はどこで、利用目的は何か。

市長 本市への企業からの立地に係る問合せは、令和3年度から先月までに100件あり、そのうち、製造業が42件で最も多くなっている。

また、富士山フロント工業団地第2期では、製造業のみを対象にした本年度の3区画の公募に対し、11社からの応募があり、工場立地の受皿となる一団の用地の確保が必要となっている。

このことから、本年度までに一団の用地の確保に向けて、インフラ整備状況や土地所有者の意向

把握等を行っており、新年度は、工場立地に向けた開発実現性を検討する際に必要となる基本的事項を調査していく。

具体的には、工業団地への土地利用転換への意向が伺える富士山フロント工業団地周辺地区と新富士インターチェンジ北側地区の2か所を対象候補地とし、法規制状況や開発の前提条件などを整理するほか、全体構想図や土地利用平面図案を作成する。

新たな産業用地の確保に向けては、土地利用転換の許認可に係る協議や造成工事など一定期間を要するが、企業の立地ニーズに応えることができるよう、企業や土地所有者の意向等を把握しながら、スピード感を持って取り組んでいく。

子供が安心して過ごせる居場所を どのように拡大していくのか 草の根ふじ

議員 子供が安心して過ごせる場所を市内各所に拡大するため、子供の居場所づくりの担い手を発掘し、人材を育成していくようだが、場所や担い手の候補について具体的に伺う。

市長 不登校やいじめ、虐待、ヤングケアラーなど、子供・若者を取り巻く環境が厳しさを増す状況の中で、生きづらさや悩みを抱えながら過ごす子供の数は増加傾向にある。

本市では、こうした環境を改善し、子供の健やかな成長を支援するため、令和4年4月に施行した富士市子どもの権利条例において、子供の居場所

について規定した。子供の居場所は、それぞれの子供が大事に思える場所だけではなく、遊びや体験活動の場や、安心して対話ができる人間関係の構築などの環境づくりも含まれるので、子供の権利や居場所づくりの理念を理解した大人たちにより行われることが重要であると考えている。

このため、新年度は、居場所づくりに関心がある方や、既に居場所づくりに取り組んでいる方などを対象に研修会を開催し、新たな担い手の発掘と人材の育成を行っていく。

今後、策定を予定している(仮称)富士市子ども総合計画においても、多様な子供の居場所づくりの推進について定めていきたい。

ラトビアのクルディーガ市との交流を どのように推し進めていくか 民主ふじ

議員 本年5月に神戸市で行われる世界パラ陸上競技選手権大会に出場するラトビア代表選手の事前合宿を受け入れるとともに、今後のさらなる交流を推進するため、本年夏に市長自らラトビアのクルディーガ市を訪問するとのことだが、今後どういった交流を推し進めようとしているのか。

市長 クルディーガ市は、ラトビア大使館から交流について推薦されている都市で、首都リガの西約155キロメートル、人口約3万人の旧市街が世界遺産の美しい街であり、昨年8月には同市からの訪問団として副市長、市議会議員や企業関係者らが本市を訪れ、教育施設やCNF関連企業等を熱

心に視察された。クルディーガ市からは具体的な交流の内容として、スマートシティの実現に向けた持続可能な社会への取組、デジタルを活用した教育技術など、多分野における交流の提案をいただいている。

本市としても、今後さらにラトビアとの交流を推進し、市民レベルでの人的交流に発展させていくには、同国内に交流の窓口となる特定の自治体が必要であることから、訪問により、首長間で両市の協力・交流の方向性を確認し、クルディーガ市長が訪日予定である令和7年度での連携協定の締結を目指している。人口規模も違い交流も浅いため、現段階では、姉妹都市提携は考えてはいないが、今後、新たな関係を築き、市民レベルでの人的交流や産業面での交流につなげていく。

議会報告会【富士市立高校】

1月29日、富士市立高等学校で総合探求科の授業の一環として、市議会から産業教育委員会委員を中心とした議員8人が参加し、議会報告会とグループワークを行いました。

最初に議会報告会として、今年度の議会事業評価の概要説明を行いました。その後、生徒と議員がグループに分かれ、議会が評価した5事業について、生徒から、高校生ならではの視点で提案を発表してもらいました。これを受け、議員が様々な助言を行い、活発な意見交換が行われました。



- 【高校生からの提案や意見(一例)】**
- 林業振興事業費、森林経営管理事業費
有名企業のキャラクターとコラボして、そのキャラクターにあったヒノキ製品を設置する。
 - ものづくり人材育成事業費
公募者や興味を持った人の意見を取り入れられるよう、ウェブサイトフォームを設ける。
 - 生け垣作り助成費
生け垣設置後の維持管理へも助成制度をつくる。
 - 水道料金賦課・収納事業
徴収、検針と併せて、独り暮らし高齢者の見守りを行う。